

# ともしび No. 79

2018(平成30)年2月28日 発行  
倉吉北高校 育友会人権教育専門部  
2017年度 第4号 ～卒業号～



皆さん、こんにちは。育友会人権教育専門部発行の『ともしび』も、今年度最後の発行となりました。今年度も人権教育研修会、人権教育LHR公開授業、公開授業後の保護者懇談会を開催し、発行した『ともしび』の中で、それぞれの内容やようすを報告できました。

私は、人権教育専門部長として、いろいろ学ぶことがたくさんあり、私自身、とても実になった1年のように感じています。私も、高校生の息子と共に、成長していきたいです。

今年1年間、ありがとうございました。

育友会人権教育専門部長 竹歳 眞澄

## 育友会人権教育専門部 この1年 ～活動報告～

|     |                                                                                                                                                         |                                                                                      |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月  | ともしび76号 発行(新年度挨拶号)                                                                                                                                      |                                                                                      |
| 9月  | 人権教育全校講演会「性といのち～性的人権を大切にした関係～」<br>講師：繁原 美保さん(本校教育相談員)                                                                                                   |                                                                                      |
| 10月 | ともしび77号 発行(人権教育LHR・保護者研修案内号)                                                                                                                            |                                                                                      |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"><li>・人権教育LHR 公開授業参観 保護者懇談会</li><li>・育友会人権教育専門部主催 人権教育研修会<br/>『大人から子どもに伝えたい性的人権について』<br/>講師：繁原 美保さん(本校教育相談員)</li></ul> |  |
| 12月 | ともしび78号 発行(研修報告号)                                                                                                                                       | 随時：各種 外部研修会<br>外部講演会等への参加                                                            |
| 2月  | ともしび79号 発行(卒業号)                                                                                                                                         |                                                                                      |

### ◎差別に関する法律(差別解消3法)が、立て続けて施行されました。

#### ①「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

通称：障害者差別解消法 2016年(平成28)年4月1日 施行

#### ②「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」

通称：ヘイトスピーチ解消法 2016年(平成28)年6月3日 施行

#### ③部落差別の解消の推進に関する法律

通称：部落差別解消法 2016年(平成28)年12月16日 施行

この法律の中で重視したいのは、『部落差別解消法』。現代社会に「部落差別」があるということを条文で明記しています。しかし課題があります。「部落差別」の解消を推進するとはいえ、何が部落差別になるのか。「部落差別」を理解しなくては、部落差別の解消に繋がらないということ。部落や部落民の定義がない中で、1人ひとりが部落差別の現実を知り、間違った情報や認識を持たないようにすることが、大切になってくると思います。ぜひ心を見つめ直してみてください。

## ～人権の視点で考えて、自分自身を見つめ直すということを～

昨年のおおみそか、『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで～絶対に笑ってはいけないアメリカンポリス 24 時～』が放送された。番組の冒頭、服装を着替えて登場した浜ちゃん（ダウンタウンの浜田雅功）を見て、私は笑えませんでした。

一緒に番組を見ていた親族の1人は、「エディー・マーフィーだ!!ハハッ!!おかしい。」と笑っていました。テレビ映像の中にもスタジオの笑い声が入り、浜ちゃん以外の出演者も笑っていました。なぜ、私が笑えなかったのか。浜ちゃんは顔全体を黒塗りして黒人に扮して登場したからです。私は「“人種差別だ”とか、“黒人を笑いに变えてバカにしている”と批判されそうだ。」と思いました。その後、浜ちゃんは、黒塗りのメイクを落としましたが、番組放送後、批判の声は海外メディアも取り上げました。

日本在住の黒人作家のマクニールさんは、『ブラックフェイスをやっている日本人に告ぐ。ブラックフェイスはジョークのオチなんかじゃない。ジョークが欲しいならもっと良い脚本家を雇え。黒人キャラが欲しいなら日本語を話す黒人を雇え。ブラックフェイスはやめろ!!』と不快感を示しています。別のメディアの取材には、『ブラックフェイスを見た瞬間は複雑で、テレビや音楽でブラックフェイスを見るたび、見下されたような、馬鹿にされたような…。そして表面だけを見られて、人間性を否定されているような気分になります。肌の色が、芝居の小道具、あるいは脚本にされたかのように感じるのです。』と答えています。



ネットでの「批判」が多い印象を受けましたが、タレントのフィフィさんはそうした声を疑問視する。「黒く塗ると“差別だ”と騒ぐ人達はネガティブなイメージを持っているのかな?」と投げかけ、「日焼けして黒人並みにするほど黒い肌に憧れている人もいるし、黒人ファッションを真似ている人もいる。意図によっては批判されるだろうけど、黒人に扮ただけで差別って?そう指摘する人たちこそ、優劣を付けて人種を見ている気がする。」とツイートしている。このツイートは1万リツイートを超え大きな反響を呼び、「同感です。ジョークとして単純に笑って終わりにできないのかね。」「差別では?と考えることはある種の配慮ではないか。私は配慮できる人の方が素敵だと思いますよ。」など、賛否両論あがっている。



私は、日本は島国で閉鎖的・内向的になりやすいと思っています。そして、



たくさんの情報がメディアを通じて報道され、すぐにスマホで検索できる時代となり、検索した情報を確認せずに鵜呑みにしやすい人が多いとも思っています。しかし、その情報が正しいか間違っているかを確かめる力を養うのは、他人でもなく自分自身だとも思っています。自分がどのように見られて扱われるかは、自分では分からないことも多いです。例えば、日本人は、海外では「アジア人」、「有色人種」というコミュニティに分けられ、国や地域によっては「アジア人差別」・「有色人種差別」が存在し、日本人も差別される可能性もあります。「外国の人はこんなイメージ」と思っている、そのイメージがすべての外国の人に該当することはありません。逆に、日本人のイメージを「サムライ!!」と言う外国の方もおられ、「日本人は武士というイメージ!!」で決めつけている人もいるかもしれません。

差別がおこるメカニズムも、そんな「イメージ」が自分自身の中に根付き、偏見の目で見ているかもしれません。一人ひとりが、「なぜ、このイメージを持った?こんな考えはいつから?」と、問い直してみることが、人権教育の大切な部分だと思います。 人権教育部長 牧田 雅啓

今年度も育友会人権教育専門部の部員さんに、1年の活動を振り返っての感想を書きいただきました。1人1人の想いを来年度以降にも繋げていきたいです。



## ～1年間の活動を振り返って～ 保護者会員さんの感想

私にとって人権教育とは、きれい事ではなく、本音を語り合う場というイメージがあります。

今年度、人権教育専門部の役を受けるにあたり、「小中学校と比べて、保護者同士のつながりが希薄な高校で、有意義な活動ができるだろうか？」という不安がありました。

しかし、活動を重ねる中で、この不安が期待へと変わっていきました。「育った環境や、現在置かれている立場が違うからこそ、今まで出会ったことのない幅広い意見や価値観に触れられたのだ。」ということに気付いたからです。

特に、2学期の人権LHR後の保護者研修懇談会は、少人数ながらも、それぞれの身近な体験や疑問等を語り合うことで、堅苦しくなく、楽しい場となり、改めて「自分を伝え、相手を受け止めることの大切さ」を学ばせていただきました。このようなチャンスを与えてくださった先生方に心から感謝しています。そして、毎回、リラックスした楽しい空気を作り出してくださった部長さん、部員の皆さん、1年間ありがとうございました。



2年・3年保護者 加藤 満夕

この1年を振り返ると、改めて「人権学習は生涯を通しての学習」であることを認識させられました。正しいことを正しく周りに伝えるために、正しい知識で、正しい判断ができるためにも、人権学習を通して、学びを得ることは非常に重要なことです。

私たちは、1人で生活することはできません。周りの人たちと関わりあい、助け合いながら生活を営んでいます。人権学習を通して、それぞれの価値観を尊重し、多様性を認め合うことができる人間に成長していきたいと思います。この1年間、活動にご協力いただき、本当にありがとうございました。

2年保護者 小谷 ジョセフィン

この1年、人権教育専門部に参加させていただき、楽しんで活動ができてよかったです。これも、スムーズに活動ができるように進めてくださった先生方、話しやすい雰囲気を作ってくださった育友会長さん、人権教育部長さん、一人ひとりの意見を真剣に聞いてくださった部員の皆さん、人権教育LHR公開授業後の保護者研修懇談会に参加された保護者の皆さんのおかげだと思います。

人権教育部は、堅苦しいイメージを持たれる方が多いですが、部員が和気あいあいと活動していますので、保護者の皆さん、参加お待ちしております。何はともあれ、人権教育専門部の活動を通して、新しい発見や学びができ、私自身が成長できたと思います。ありがとうございました。



2年保護者 牧田 かおり



## ～人権教育を通して感じたこと～

3年間、人権教育に携わり、いろいろなことを学ばせていただきました。その中で、一番強く感じたことは、「人それぞれ、自分らしく」が大事ということ。それぞれの人は、いろいろな顔を持っています。私は、①仕事している時の顔 ②母の顔 ③女の顔と、いろいろ使い分けて生活をしています。保護者の方の中にも「母の顔だけ」とか、「父の顔だけ」。または「仕事の顔」、「休みの時の顔」という感じ

で使い分けておられる方も、中にはおられるではないでしょうか。

人それぞれが、その時その時に合わせて、自分自身で「自分らしく」生きておられるのではないのでしょうか。そしてきっと、同じ考えの人なんていません。まず、自分を愛し、自分を理解しなければ、他の人にも優しくなれません。『あなたは自分のことが好きですか?』そう、自分自身に問いかけてみてください。周りの人の目を気にしすぎて生きるのではなく、自分らしく生きることが、笑顔も幸せも運んでくるような気がします。『笑顔は周りも笑顔にしてくれる』。1人ひとりの人が、「そう思って生きていけたらなあ。」と感じながら、活動した1年でした。

育友会長 山田 珠央



## ～編集後記～ 部員さんより

本年度も昨年度に引き続き、少ない部員数ながらも、年間6回の部会を開催するとともに、機関紙である「ともしび」を4回発行できました。また、育友会人権教育専門部主催の人権教育研修会を1回開催することができました。特に「ともしび」では、今年度実施した全校講演会の内容、人権教育LHR公開授業、公開授業後の保護者懇談会の内容、さらに、育友会人権教育研修会「大人の子どもに伝えたい性的人権」で学べた報告などを載せることができました。

私たちの<sup>あつ</sup>熱い想いが届いたでしょうか。



## それぞれの春、おめでとうございます！

3年生は、いよいよ卒業。4月から新生活が始まります。倉吉北高にかかわる全ての人に、素晴らしい春がやってきますように。

